



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース No.15
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1974, 15, p. 73-95
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65255
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「利用の手引(暫定版)」についてのアンケート調査報告

教育広報専門委員会

去る6月刊行しました「利用の手引(暫定版)」についてアンケート調査を行い、「確定版」作成について情報収集を行いましたところ、以下のようなご回答がありました。(アンケート発送数646通、回答数109通、回答率16.8%)利用者の方々のご協力に感謝致します。お寄せ頂いたご意見は確定版作成の際、可能な限り利用させて頂きたいと考えております。

Q-1 「利用の手引」はお手元に届きましたか。

	回答数
(a) はい	107通
(b) いいえ	2通

Q-2 「利用の手引」を

	回答数
(a) 読んだ。	34通
(b) 目を通した。	74通
(c) 読んでいない。	1通

Q-3 説明が不充分なところや、不明瞭なところがありましたら、章・節番号と問題点を簡単に示し下さい。

回答項目が多岐にわたるのでまとめてみるとつぎのようになります。

(1) 説明不充分な箇所(章・節) : 2・5, 6・6, 7。

(2) 要望事項 : 1. カードデック保管の有効期間, 2. プログラム言語の種類と特長, 3. FORTRAN 700 と JIS FORTRAN レベル 7000 の差, 4. 再計算される代表的なエラー・メッセージ・リスト, 5. ドラフターの実際例, 6. 研究開発規程で指定された諸書式, 手続の明示, 7. 規則の運用面の実情説明。

などについて、補足または掲載の要望がありました。TSSについての詳しい情報要求もありましたが、これは別の手引の作成を考慮中であります。

Q-4 この「利用の手引」をさらによくするために、どのような項目を加えればよいでしょうか。ご意見があれば簡潔にお書き下さい。

要望を主な項目別にまとめてみると、つぎのようになります（Q-3の要望項目との重複部分は除く）。

1. プログラム指導員・相談員制度、2. システム・ライブラリの説明、3. 他の共同利用システムとの互換性、4. エラー・UEPメッセージの説明、5. 用語の説明、6. センター内業務の職務分担と連絡先の明記、7. 索引作成、8. FORTRAN以外の言語の説明。

この他、マニュアルの入手方法、オープン・パッチ、ユーザ・ファイルについての説明要望がありました。時間のずれでこのようなご希望がでたものと思われますが、これらの3項目はすでに本号以前のセンター・ニュースに掲載されておりますのでご覧下さい。（センター・ニュース10号以前の掲載内容のまとめは10号（1973.7）に掲載されています。）

利用の手引「確定版」は遅くとも明年4月上旬までに刊行の予定です。

~~~~~

## 昭和50年度利用申請書の受付時期について

昭和49年度の利用申請書は本年度3月4日から受付を始めましたが、昭和50年度は1ヶ月繰り上げて、明年2月上旬から受付を開始する予定です。

なお詳しくは、計算機利用報告書提出の件とあわせて別途通知します。

## 新システムにおける運用方法等の解説

(本年7月に発行いたしました解説と同じ内容のものです)

### 目 次

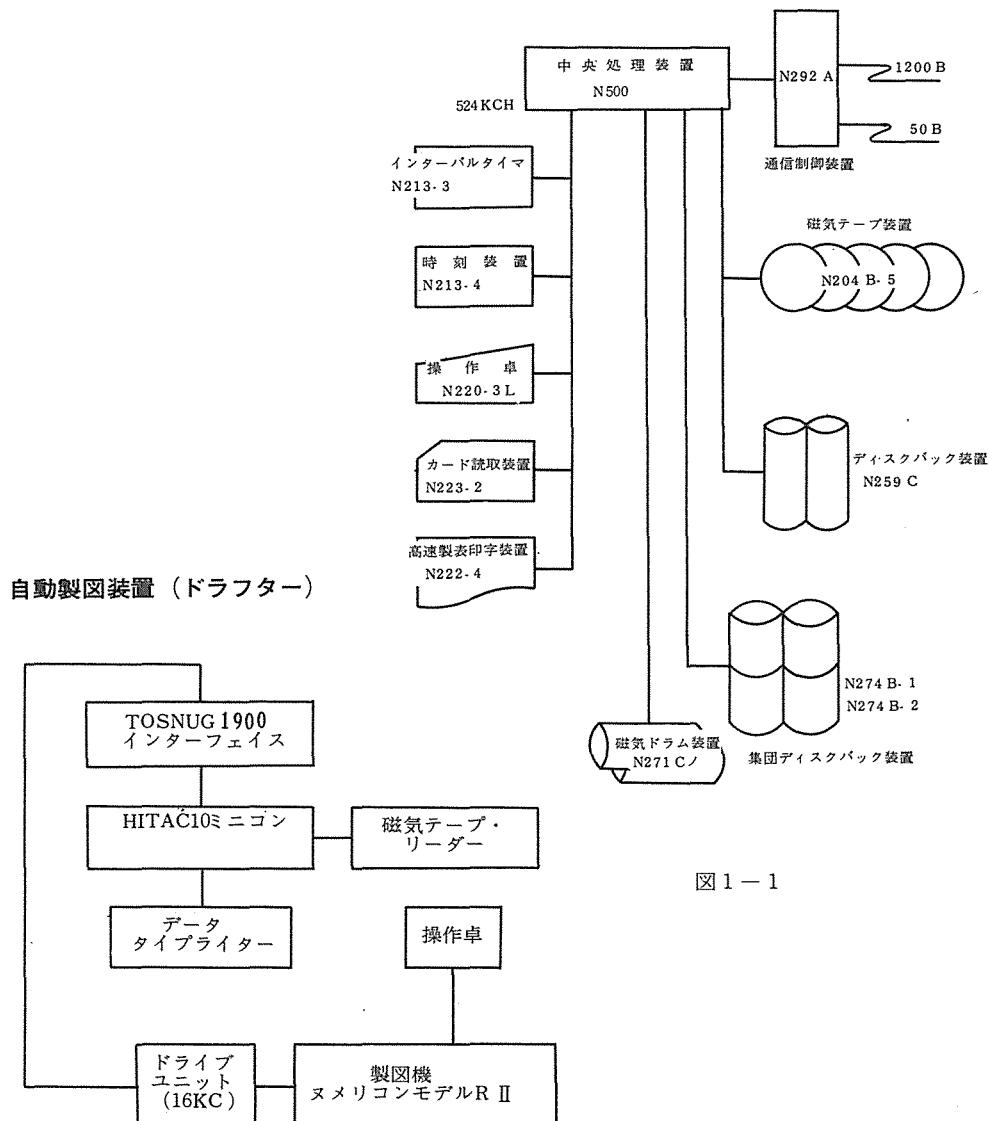
|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 1. 計算機システムの変更 .....                        | 76 |
| 1.1 システム構成 .....                           | 76 |
| 1.2 ジョブ処理形態 .....                          | 78 |
| 2. ジョブ(作業)区分 .....                         | 79 |
| 3. オープン・バッチ・サービス .....                     | 80 |
| 3.1 処理できるジョブ .....                         | 80 |
| 3.2 ディバイス .....                            | 80 |
| 3.3 使用するコントロール・カード .....                   | 80 |
| 3.4 利用できる言語 .....                          | 81 |
| 3.5 利用方法 .....                             | 81 |
| 3.6 メッセージ .....                            | 85 |
| 3.7 サービス時間 .....                           | 85 |
| 4. 受付方法 .....                              | 86 |
| 4.1 計算センター受付 .....                         | 86 |
| 4.2 連絡所受付 .....                            | 87 |
| 4.3 学外利用者の郵送受付 .....                       | 88 |
| 4.4 優先 JOB受付 .....                         | 88 |
| 5. 返却方法 .....                              | 89 |
| 5.1 利用者入力用カード読み取り装置から依頼されたジョブ .....        | 89 |
| 5.2 ジョブ受付, 連絡所および郵送で依頼されたジョブ .....         | 89 |
| 6. 再計算処理 .....                             | 90 |
| 7. 簡易コントロール・カードのパラメータ変更 .....              | 91 |
| 8. カード読み取り装置の入力操作法 .....                   | 92 |
| 8.1 利用方法およびカード読み取り中エラーが発生した時の状態とその処置 ..... | 93 |

## 1. 計算機システムの変更

### 1.1 システム構成

システムIII (N-500)を撤去し, NEAC 2200-700が導入されることにより, 当計算センターの機器構成は図1-1のようになります。

NEAC- シリーズ2200  
モデル500システム構成図 (TSS用)

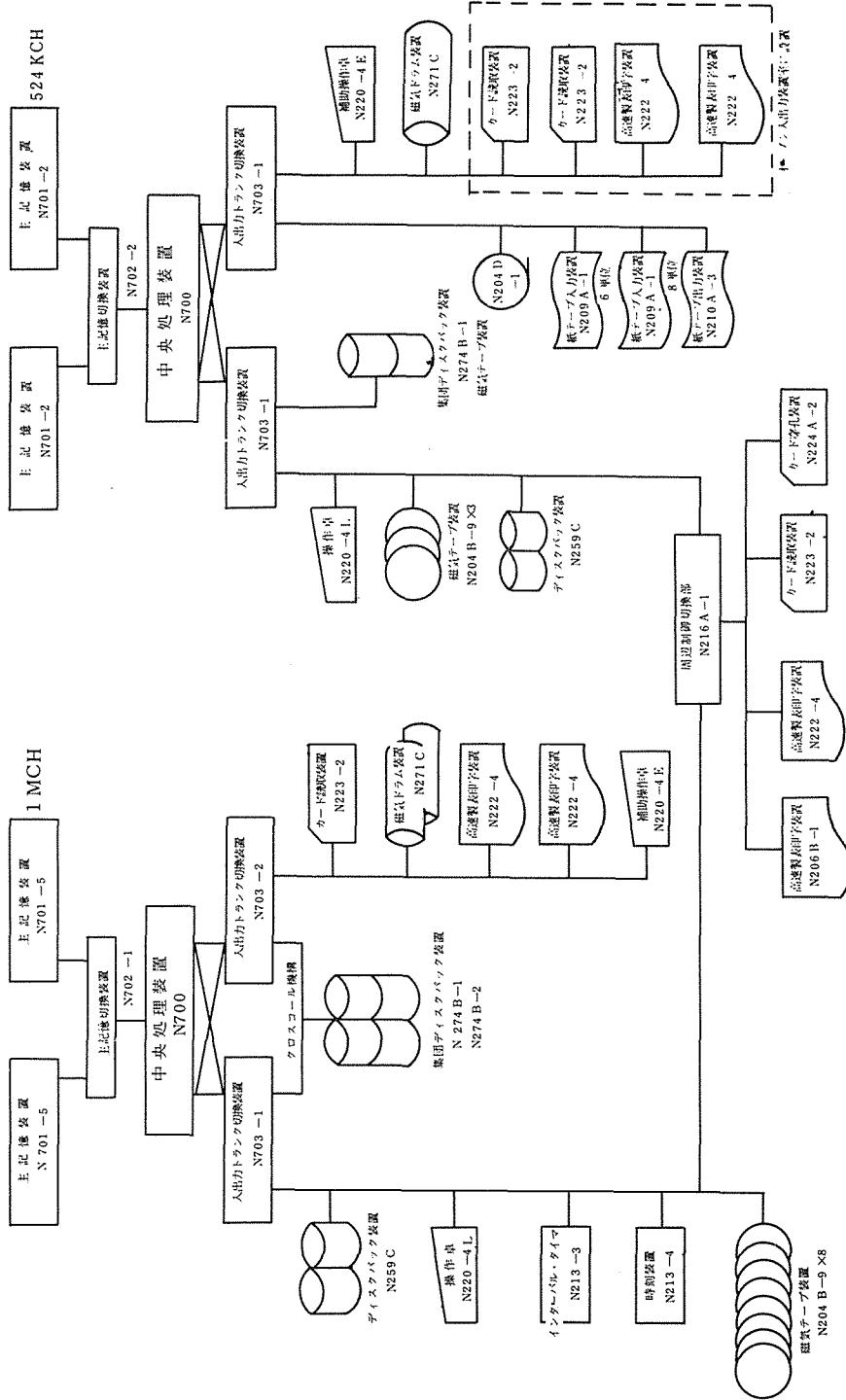


NEAC-シリ - 2200

用チチツバ

## モデル700システム構成図

オーブン・バーナー上に利用者入力用



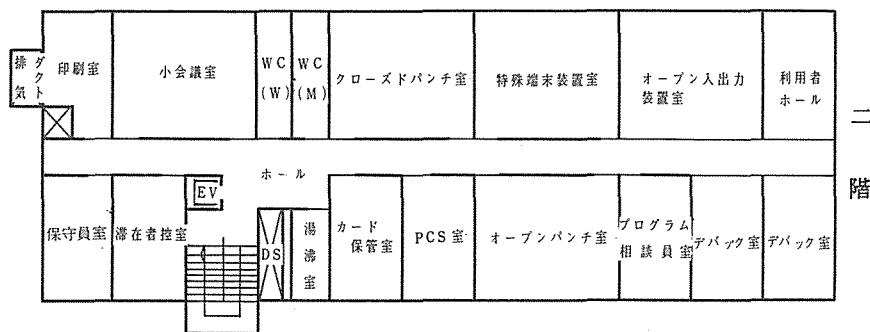
## 1.2 ジョブ処理形態

現在稼動中のシステムⅠ（モデル700 1号機）は従来通りクローズ・バッチ・システムとして運転しますが、新らしく導入されるシステムⅢ（モデル700 2号機）については当計算センター2階（図1-2）にオープン入出力装置室（現利用者ホール）を設け、主としてオープン・バッチ・システムおよび利用者入力バッチ・システムとして運転いたします。

オープン・バッチ・システムとはターン・アラウンド・タイムの短縮を目的としたもので、オープン入出力装置室で、カード入力から計算結果の受取りまでの一切を利用者自身に行なっていただぐ処理形態です。

利用者入力とは、計算依頼の一方法で受付窓口を通さずに利用者の方が直接オープン入出力装置室のカード読取装置でシステムに入力する方法で、入力後直ちにカードを持ち帰ることが出来ます。

オープン入出力装置室とは、オープン・バッチ・システムおよび利用者入力用のためのカード読取装置2台、高速製表印字装置2台が設置してある室で当計算センター2階にあります。



オープン入出力装置室

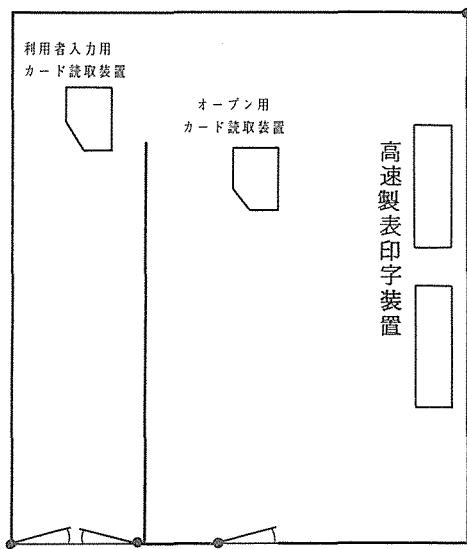


図1-2

## 2. ジョブ(作業)区分

当センターのジョブ区分は表2-1の範囲に制限されています。

| 区分      | CPU時間 | 印刷頁数  | カード出力 | メモリサイズ            | カード入力数 | 作業用ファイル         |
|---------|-------|-------|-------|-------------------|--------|-----------------|
| OPN JOB | 30 秒  | 30    | 0     | 120 Kch( 15 KW)   | 1000   | 不可              |
| A JOB   | 5 分   | 80    | 0     | 180 Kch( 22.5 KW) | 4700   | テープ 1<br>ディスク 1 |
| B JOB   | 15 分  | 200   | 1000  | 410 Kch( 50 KW)   | 4700   | テープ 2<br>ディスク 1 |
| C JOB   | 60 分  | 500   | 2000  | 800 Kch( 100 KW)  | 4700   | テープ 3<br>ディスク 1 |
| 特殊 JOB  | 申請による | 申請による | 申請による | 800 Kch( 100 KW)  | 4700   | テープ 3<br>ディスク 1 |

| 区分      | 利用者ファイル | ドラフター | 入力方法    | 備考 |
|---------|---------|-------|---------|----|
| OPN JOB | 不可      | 不可    | 利用者入力   |    |
| A JOB   | 不可      | 不可    | 利用者入力   |    |
| B JOB   | 可       | 可     | 利用者入力   |    |
| C JOB   | 可       | 可     | JOB受付窓口 |    |
| 特殊 JOB  | 可       | 可     | JOB受付窓口 |    |

☆ OPN JOB(OPEN JOBを示す以下同じ)

表 2-1

1. 特殊 JOBは、計算依頼の際に所定の申請書を提出しなければなりません。
2. OPN JOB, A JOBはモデル700 2号機で処理する関係上利用者ファイル、ドラフターは使用できませんので注意してください。

### 3. オープン・バッチ・サービス

当センターの計算サービスを受けようとする利用者が、システム入力→処理→システム出力をおこなうサービス形態をオープン・バッチ・サービスと言います。

このサービスは、利用者に短時間で計算結果を返却することを目的としています。

この様なサービス形態は、計算機の処理能力が増大すればするほど、多くおこなわれると思います。しかし残念ながら標準ジョブ（A JOB B JOB）でのオープン・バッチ・サービスをおこなうには、現システムではあまりにも処理能力が少なすぎること、またエリアも小さいため今回はOPEN JOBだけとしました。

#### 3.1 オープン・バッチ・サービスで処理できるジョブ

|                                |                |
|--------------------------------|----------------|
| C P U T I M E                  | 30 秒           |
| 製表印字頁枚数                        | 30 頁           |
| カード出力枚数                        | なし             |
| メモリーサイズ                        | 120 Kch (15KW) |
| カード入力枚数                        | 1000枚          |
| FORTRAN コンパイルできるプログラム単位カード入力枚数 | 380枚           |
| 作業用ファイル・利用者ファイル                | 使用出来ません        |

以内のジョブであれば、すべて処理できます。

☆ 49年2月（最盛期）におけるシステムⅠでの利用者JOB処理件数8795件の内、3111件が該当します。

#### 3.2 オープンディバイス

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| カード読取装置（N 223-2）  | 1050枚／1分 1台 |
| 高速製表印字装置（N 222-4） | 950行／1分 2台  |

#### 3.3 オープン・バッチ・サービスで使用するコントロールカード

現在使用しているコントロールカード（利用の手引 7. バッチシステム用コントロールカードの項を参照願います）は、ほとんど使用できます。（モデル500オープン・バッチ・サービスで使用したコントロールカードは、使用できませんので注意してください。）

なお、オープン・バッチ・サービス用にコントロールカードのパラメーターが、一部変更になっている所は次のとおりです。

- \$ JOB カード

\$ JOB 課題番号(10字), 利用者 ID(4字)

課題番号の後にコンマ(,)で, 区切って利用者 ID(英数字4字)をパンチしてください。

これは, 利用者が自由に使用出来るもので, プリント出力の時, 計算結果の表紙に受付番号とともにプリントされますので, 利用者の識別に利用してください。

- \$ NO, \$ WORK, \$ DAP, \$ UF, カードは無視します。

- 各コントロールカードのUFのパラメーターは, 無視します。

### 3.4 オープン・バッチ・サービスで利用できる言語

FORTRAN 700

COBOL L

ALGOL L

ASSEMBLER 700

他の言語, アプリケーション パッケージは使用できません。

### 3.5 オープン・バッチ・サービス利用方法

まず, カードデックを図3-1の様に構成してください。

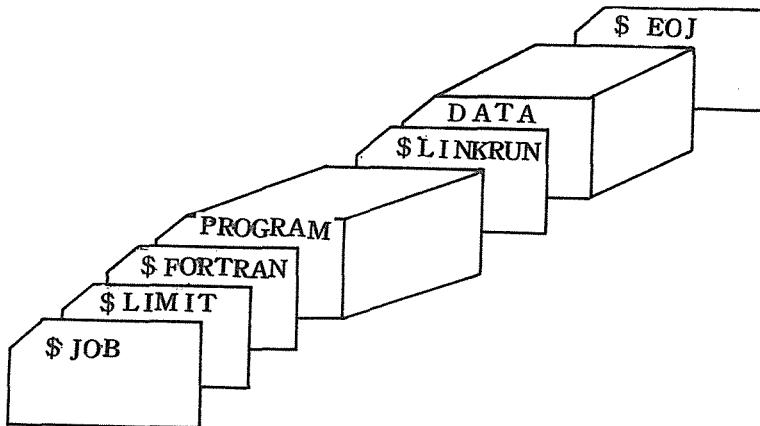


図 3-1

次に, 2階オープン入出力装置室に行きオープン入力用カード読み取り装置にカードをセットしてシステム入力します。

( 入力操作は、カード読取装置操作法の項をごらんください。 )

システム入力が済みますと、モニターテレビ(コンソール・タイプライターをうつしている)に利用者IDと受付番号がうつりますので確認してください。

課題番号ミス、コントロールカードミスも表示されますので入力後必ず確認してください。

システムで計算処理された結果は、オープン用高速製表印字装置2台のどちらかに输出されます。

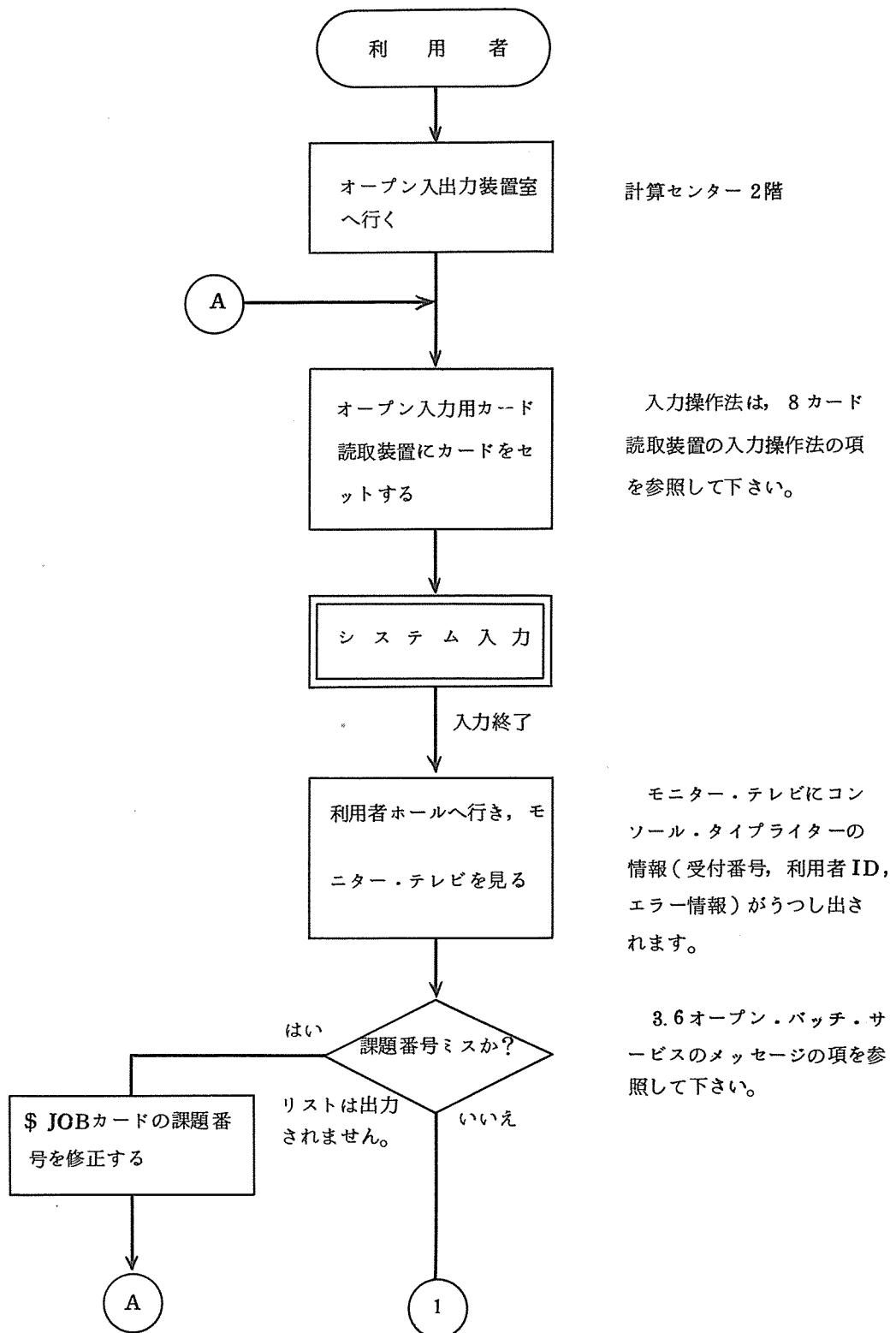
どちらの高速製表印字装置に出力されるかは、モニターテレビにうつし出されます。

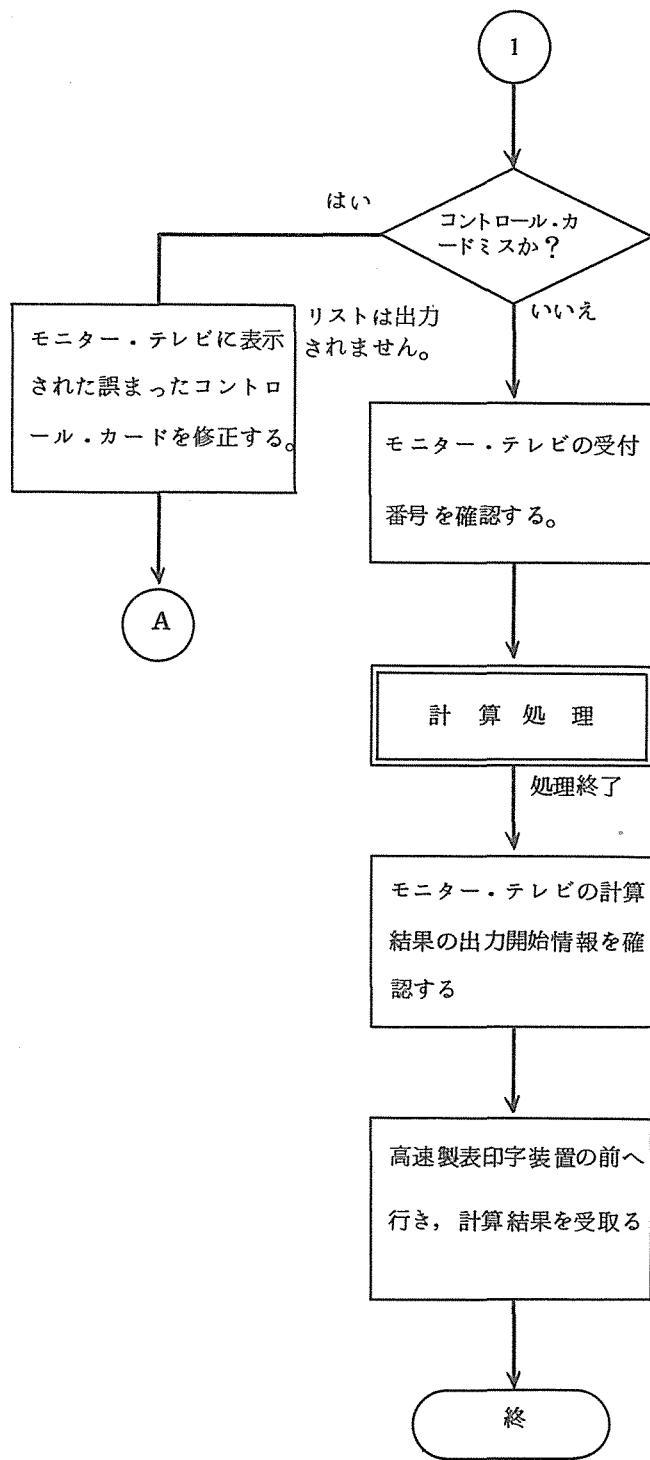
計算結果の表紙には、受付番号及び利用者IDがプリントされますので、間違って他人の結果を持ち帰らない様にしてください。

プリント中に、高速製表印字装置を止める時は、コントロールパネルのSTOP鉤を押して下さい。一行印字後ストップします。続けて、プリントする時はSTART鉤を押せば続けてプリントします。

システム内には、6件のジョブがスタックされますので、ターン・アラウド・タイムは5分~10分になります。

これを図示すれば次のとおりです。





3.6 オープン・パッチ・サービスのメッセージの項を参照して下さい。

計算結果の表紙には、受付番号および利用者 ID がプリントされますので、間違って他人の結果を持ち帰らない様にして下さい。

プリント中に高速製表印字装置を止める時は、コントロールパネルの STOP 鈕を押して下さい。引き続きプリントする時は START 鈕を押せば、続けてプリントします。

### 3.6 オープン・バッチ・サービスのメッセージ(モニターテレビに写ります)

#### ① システム入力時

- UCL20I NO. ERROR 受付番号, 利用者ID  
NO CARDの第一文字目がA, B以外である。
- UCL21I NOT ENTERED NO 利用者ID  
NO CARDが入力されていない。
- UCL23I NOT ENTERED JOB 受付番号  
JOB CARDが入力されていない。
- UCL24I KDI ERROR 受付番号, 利用者ID, 課題番号  
課題番号が間違っている。
- UCL27I DUPLICATE 受付番号, 利用者ID, CARD IMAGE  
CARD IMAGEのCARDがすでに入力されている。
- UCL28I INV. SEQ 受付番号, 利用者ID, CARD IMAGE  
CARD IMAGEのCARDが不正な所にある。
- UCL29I INV. CARD 受付番号, 利用者ID, CARD IMAGE  
CARD IMAGEのCARDが間違っている。
- UCL30I CCL-IN 受付番号, 利用者ID  
正常にこのJOBは入力された。
- UCL98E INPUT CARD STREAM TOO MANY 受付番号,  
利用者ID JOB区分で定められた入力枚数を越えている。
- UCL31I 受付番号, 利用者ID IS CANCEL JOB  
このJOBに間違った所があるのでシステムに入力しない。
- UCL32I 受付番号, 利用者ID NOT PERMIT UF, DRAFTER,  
WORKTAPE, WORKDISK  
A JOBで\$DAP, \$UFのカードが挿入されている。又は各JOB  
区分で許されている以上の作業ファイルを使用している。

#### ② システム出力時

MOW05I PRINT, 受付番号, , , P3

表示の受付番号のジョブがプリント開始したことを示す。

### 3.7 オープン・バッチ・サービスのサービス時間

|              |               |
|--------------|---------------|
| 月曜日 ~ 金曜日    | 10:00 ~ 16:00 |
| ただし木曜日は保守のため | 13:00 ~ 16:00 |
| 土曜日          | 10:00 ~ 11:30 |

## 4. 受付方法

### 4.1 計算センター受付

① AおよびB JOBを依頼される時は、図4-1の要領でカードデックを用意し、オープン入出力装置室（センター2階）の利用者入力用カード読取装置からカードデックを利用者自身で入力していただきます。（カード読取装置の取扱いについては、「8.カード読取装置の入力操作法」の項を御覧下さい。）

入力後、カードデック構成、コントロールカード課題番号等に間違いがなければ、モニターテレビに次のように表示されます。

01 UCL30I CCL IN 受付番号 , 利用者ID

受付番号は従来と違ってシステムで自動的に生成したもので、この番号の下2桁が返却時に用いられますので必ずメモをして置いて下さい。

もし間違いがあった場合はその主旨のメッセージ（「3.6 オープン・バッチ・サービスのメッセージ」の項を御覧下さい）が写し出されますので、訂正後再度入力を行って下さい。

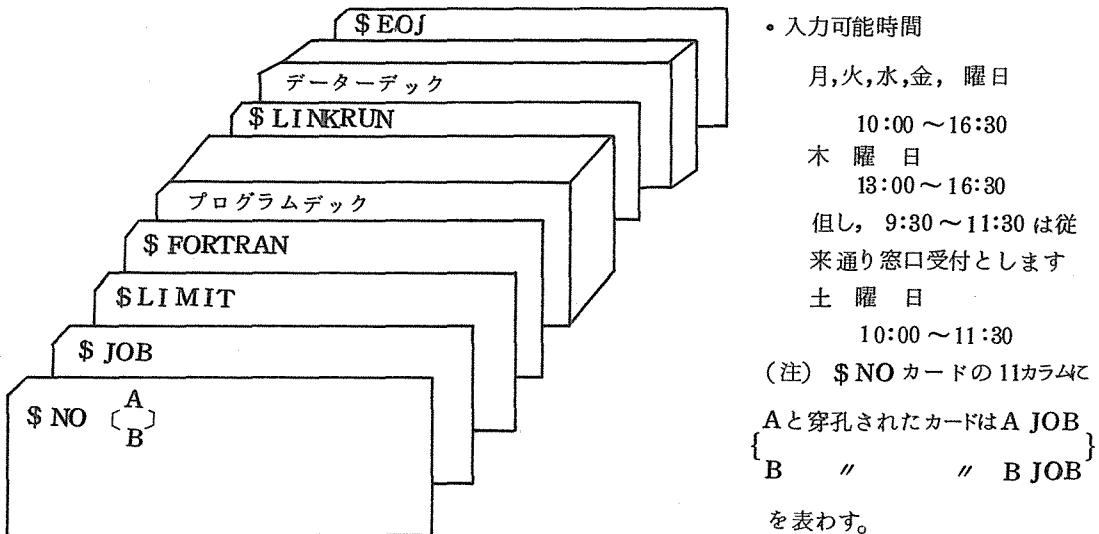


図4-1 標準形カードデック構成（利用者入力）

② Cおよび特殊JOBを依頼される時は、図4-2の要領でカードデックを用意し、Noカード、計算依頼カードに必要事項を記入の上ジョブ受付に提出して下さい。

NOカードは必ずジョブ受付に備えてあるカードホッパのものを用い余分のカードを絶対に持ち帰らないで下さい。

計算依頼カードは「センターとめおき」「連絡所おくり」の二種類があります。このカードに必要事項記入後薄い紙の方は利用者のメモとして保存して下さい。

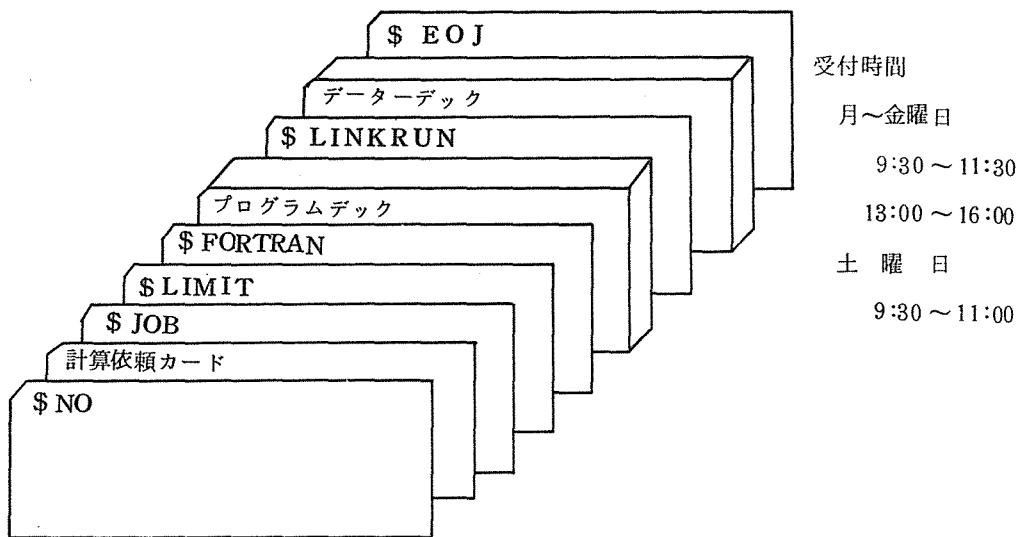


図4-2 標準形カードデック構成(センター入力)

③ 利用者入力システムを使用されない場合および同システムが運転されていない時間(木曜日の午前中を除く16:30～翌朝10:00)に依頼される場合は受付窓口に設置してあるNOカードに所定の事項を記入して時間外キャビネットに入れておいて下さい。

なお、回収時刻は午前10時ですので10時までに出された場合は当日受付、以降に入れられますと翌日受付となり、また、カードの返却は従来通りシステム入力後となるため大幅に遅れますので御留意願います。

#### 4.2 連絡所受付

① 豊中連絡所から計算依頼される時は、図4-2の要領でカードデックを用意し、Noカード計算依頼カードに必要事項を記入の上、連絡所受付に提出して下さい。

② 豊中以外の連絡所から計算依頼される時は、図4-3の要領でカードデックを用意し、計算依頼カードに必要事項を記入の上、連絡所受付に提出して下さい。なお、計算依頼カードの受付番号欄左端に必ずJOB区分A, B, Cのいづれかを記入して下さい。

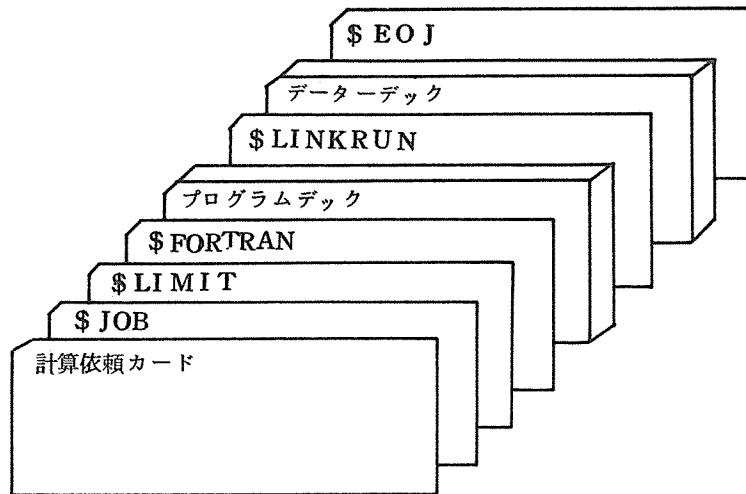


図4-3 標準形カードデック構成(連絡所)

#### 4.3 学外利用者の郵送受付

学外から計算依頼される時は、図4-3の要領でカードデックを用意し、計算依頼カードに必要事項を記入の上センター宛に小包で郵送して下さい。なお、計算依頼カードの受付番号欄左端に必ず JOB 区分、A, B, Cのいづれかを記入して下さい。

#### 4.4 優先JOB受付

利用者旅費制度を利用され優先JOBとして計算依頼される時は図4-2の要領でカードデックを用意しNOカード計算依頼カードに必要事項を記入の上ジョブ受付に提出して下さい。  
受付時間はジョブ受付時間内に限ります。

(注) 計算センター受付、豊中連絡所から C JOB を計算依頼する時は必ずNOカードのメモリサイズ欄をチェックして下さい。

豊中以外の連絡所および学外から郵送で C JOBを計算依頼する時は、必ず計算依頼カードの余白にプログラム実行メモリサイズ「410 KC以下」又は「410 KC以上」のいづれかを記入して下さい。

## 5. 返却方法

### 5.1 利用者入力用カード読取装置から依頼されたジョブ

\$MAILカードの有無によりセンター返却棚又は連絡所へ返却されます。

#### a. \$MAILカード使用した場合

\$MAILカードをNOカードの後に挿入した時計算結果は、学内コンテナ便、学外コンテナ便又は郵送によって連絡所に返却します。

#### b. \$MAILカード使用しなかった場合

計算結果は受付番号（利用者入力カード読取装置から入力後モニターテレビに写し出された受付番号）の下2桁の返却棚に返却します。

### 5.2 ジョブ受付、連絡所および郵送で依頼されたジョブ

カードデック、計算結果の返却は、計算依頼カード（センターとめおきと連絡所おくりの二種類があります）の指示に従い、センター返却棚又は連絡所へ返却されます。

#### a. 「センターとめおき」指定の時

カードデック計算結果は、受付番号の下2桁の返却棚に返却します。

#### b. 「連絡所おくり」指定の時

カードデック計算結果は、学内コンテナ便、学外コンテナ便又は郵送によって連絡所に返却します。

（注）計算センター返却棚にJOBが返却されてから1ヶ月以上返却棚に放置されているJOBは、センターで処分しますので、それまでに必ず取りに来て下さい。

## 6. 再 計 算 处 理

計算結果の内容が明らかに計算機ミスの場合などは、同じ物を再処理します。計算結果に不審な点があれば、関係資料を添えてプログラム相談室へおいで下さい。その結果再計算処理に該当すると判定されれば、計算結果のリストを持ってジョブ受付へ申し出て下さい。

## 7. 簡易コントロール・カードのパラメータ変更

運用方法の変更に伴い、ジョブ・カードとリミット・カードのパラメータが変更になります。

### ① \$JOBカード

\$JOB 課題番号(10字) → \$JOB 課題番号(10字), 利用者ID(4字)

第2パラメータが追加されました。但しオープン・パッチ・システムおよび利用者入力の時のみです。詳しくは3-2を参照して下さい。

### ② \$LIMITカード

\$LIMIT TTT, PPPPP, CCCCC, → \$LIMIT TTTSS, PPPPP, CCCCC

ジョブ打切りCPU時間が分単位から秒単位に変更になりますので、第1パラメータの指定の方法がTTT(分)からTTTSS(分,秒)にかわります。

(注) 秒の指定→0秒～59秒(下2桁は秒として取扱われますので注意して下さい)

例 CPUタイム5分, 出力ページ枚数100枚, カード出力0枚

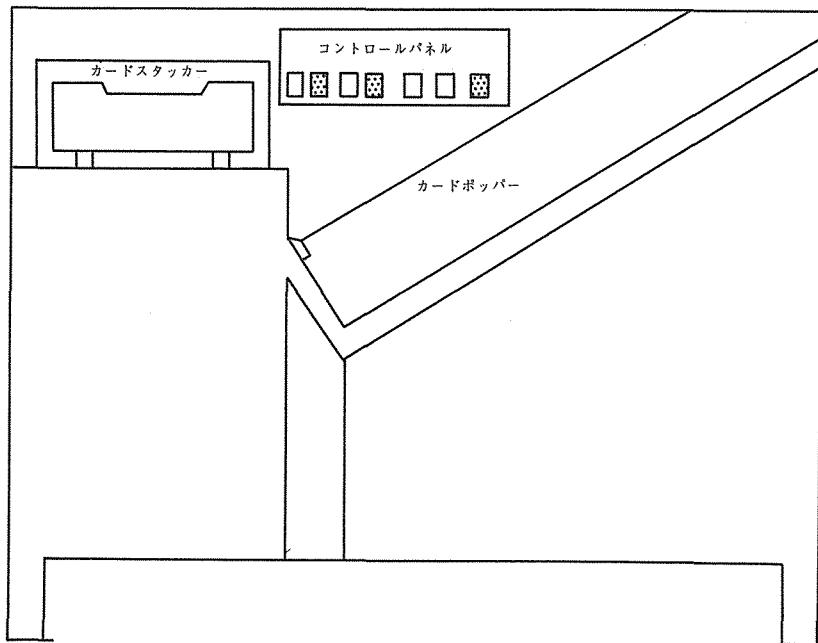
\$LIMIT 00500,00100,00000

CPUタイム5分15秒, 出力ページ枚数100枚, カード出力0枚

\$LIMIT 00515,00100,00000

## 8. カード読取装置の入力操作法

カード読取装置は図 8-1 の様になっています。



コントロール・パネル・スイッチ及びインジケーター

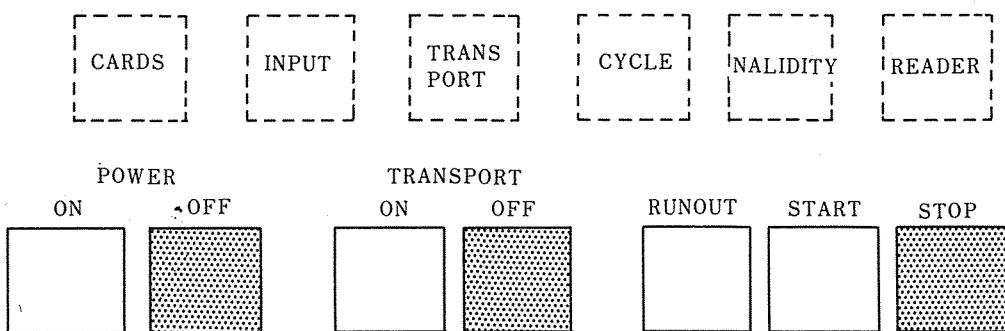
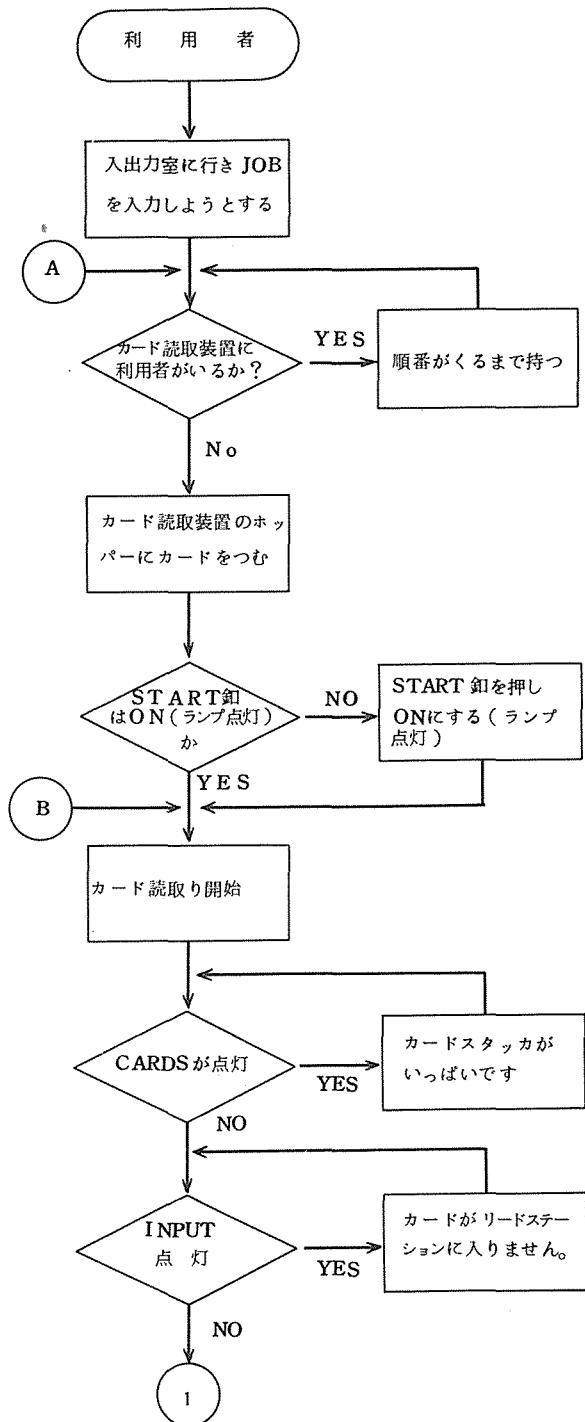


図 8-1

### 8.1 利用方法およびカード読み取り中エラーが発生した時の状態とその処置



まず、POWER ON, TRANSPORT ON を確認して下さい。（先に利用者がいる時は必要ありません）

次にカード間の滑りをよくするためカードをしごいて下さい。この時くせのついたカードは、くせをなおして下さい。

カードをカードホッパーにのせ、押え金具をセッテしてSTART鉤を押して下さい。（ランプ点灯）

ジョブは、1件づつ区切る必要はありませんので続けてホッパーにのせて下さい。

カードスタッカがいっぱいの状態(2,300)です。カードをスタッカから取り START鉤を押して下さい。

ホッパーからカード1枚(最前列)を取り出し、カードの先端をのばすか、あるいは複数してホッパーに戻し START鉤を押して下さい。

